

子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト
親子ふれあい読書フェスティバル

本はともだち



福島県立図書館



子どもたちに本を



～子どもたちに本を手渡す大人の方々へ～




子どもたちに素敵な本と出会ってほしいとの願いを持つ大人の方々へ、読み聞かせの時期から自分で本を読み始める移行期に、薦めてほしい本のリストを作成しました。





自分で読みたいけれど、文字を追うだけで精一杯の子どもにとっては、まだ読んでもらうことが必要です。世界を広げるような内容、心を深めるような絵本を読んであげてください。




また、自分で読む喜びを知った子には、主人公と一緒に新しい冒険に出るわくわくした気持ちを持てる本、冒険への出発の時より成長し少しでも大人になった自分に出会える本などを薦めたいと思います。今回選んだ本は、最後まで自分で一冊の本を読む喜びを味わうことができるよう、短いわかりやすい文章で表現された作品です。

このリストに載せた本以外にも子どもたちに薦めたい本がたくさんあります。ぜひ、図書館でご相談ください。

【凡 例】

-  絵本から物語を楽しむ移行期、小学校低学年からの時期におすすめの本を掲載しました。
-  物語 22 作品は、自分で読むなら低学年から、読んでもらうなら 5 歳くらいから楽しめる作品です。
-  絵本 18 作品は、小学生になっても読んでもらう喜びを味わうとともに、生きることや世の中のことについて考えることができる作品です。

書名
著者名
出版社 出版年
 
 表紙写真
内容紹介
当館請求記号 

-  マークは読んでもらえば幼児から楽しめる本です。
-  マークは自分で読むなら小学校中学年からの本です。
-  マークは品切等で購入できない本です。図書館でご利用ください。

エルマーのぼうけん

ルース・スタイルス・ガネット／さく わたなべしげお／やく

福音館書店 1963



エルマーは捕まったこどもの竜を助け出すためにどうぶつ島に向かいます。リュックに詰めてきたものを使い、様々な困難にも勇気と知恵で立ち向かい解決していきます。続編『エルマーとりゅう』『エルマーと16びきのりゅう』

933/ガル

大どろぼうホッツエンプロッツ

オトフリート・フロイスラー／著 中村浩三／訳

偕成社 1966



おばあさんのコーヒー挽きが盗られました。カスパーは親友ゼッペルと子どもらしい知恵と工夫で大どろぼうホッツエンプロッツに立ち向かいます。続編『大どろぼうホッツエンプロッツふたたびあらわる』『大どろぼうホッツエンプロッツ三たびあらわる』

943/7

おそうじをおぼえたがらないリスのゲルランゲ

ジャンヌ・ロッシュ＝マン／作 山口智子／訳

福音館書店 1973



しっほが自慢のリスのゲルランゲは家の掃除を嫌がって家族から追い出されてしまいます。でも、オオカミに食べられそうになってもお掃除だけはしたくないと言い張り、オオカミまで困らせてしまいました。

953/7

きえた犬のえ

マージョリー・W・シャーマット／作 光吉夏弥／訳

大日本図書 1982



名探偵ネートは、仲良しのアニーから黄色いイヌの絵がなくなってしまった事件捜査の依頼を受けます。パンケーキ大好きな名探偵は推理力を働かせて捜査を始めます。「ぼくはめいたんてい」シリーズ

933/シマ

こくまのくまくん

E・H・ミナリック／作 松岡享子／訳
福音館書店 1972

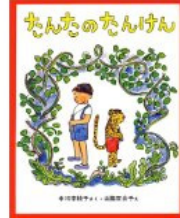


冬の日、くまくんは外へ遊びに行くためにお母さんに帽子やコートを作ってもらいます。それでも寒いので「毛皮のコートがほしい」と言います。くまくんとおかさんの暖かいお話が4つ収められています。

「はじめてよむどうわ」シリーズ
933/ミ

たんたのたんけん

中川李枝子／作
学研 1971



たんたの誕生日にどこからか届いた不思議な手紙、たんたはそれを持って探検に出かけます。その探検で出会ったのは不思議なひょうの子でした。

続編『たんたのたんてい』

913/ナ

チムラビットのぼうけん

アリソン・アトリー／作 石井桃子／訳
童心社 1967



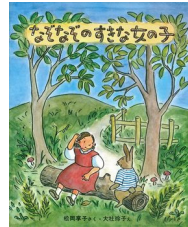
勇敢で好奇心旺盛なうさぎのチムはあちこちで騒動を起こします。チムをめぐる9つのお話集です。

「チムとサムの本」シリーズ

933/ア

なぞなぞのすきな女の子

松岡享子／作
学研 1973



なぞなぞの大好きな女の子が、森でオオカミに出会い、なぞなぞ比べをはじめます。女の子のなぞかけに答えが思いつかないオオカミが一生涯懸命考えている間に女の子は家に帰ります。

913/マキ

ねずみの家

ルーマ・ゴッテン／作 おびかゆうこ／訳
徳間書店 2001

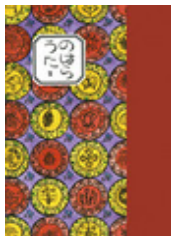


地下室の割れた植木鉢に家族で住んでいたねずみのボニーは、ぎゅうぎゅうづめの植木鉢から落ち、自分の寝床を探しに行きます。2階のメアリーリーの部屋で見つけたのはすてきな「ねずみの家」でした。

933/コル

のうはらうた

工藤直子／作
童話屋 1984



かぜみつる、かまきりりゅうじ、こねずみしゅんなど、のはらのみんなが作った素敵な詩集です。背筋を伸ばして生きるものたちの声が聞こえます。全6冊。

911/ウ

はじめてのキャンプ

林明子／作
福音館書店 1984



なほちゃんは、大きい子たちに混ざってはじめてのキャンプに出かけます。大きい荷物と、ドキドキとわくわくをもって行きます。そして、大きい子に手伝ってもらいながら、一つ一つの仕事をこなしていきます。

913/ハク

番ねずみのヤカちゃん

リチャード・ウィルバー／作 松岡享子／訳
福音館書店 1992



ドドさんの家に住んでいるのはねずみの家族。静かにしていなければ見つかってしまいます。でも、ヤカちゃんはどうなにかを付けても大きな声だけは治りません。

933/ウ

火曜日のごちそうはヒキガエル

ラッセル・E・エリクソン／作 佐藤 凉子／訳
評論社 1982/2008



ヒキガエルの兄弟、掃除好きのウォートンと料理好きのモートン。ある日、ウォートンはミミズクにつかまり、誕生日のごちそうとして、火曜日までミミズクの巣穴で暮らすことになります。「ヒキガエルとんだ大冒険」シリーズ

933/エラ

ふらいぱんじいさん

神沢利子／作
あかね書房 1969



卵を焼くのが大好きなフライパンのおじいさん、新しいフライパンのせいで出番がなくなり悲しくなって旅にでます。動物や魚たちのところを巡り、たどり着いたのは鳥たちのところでした。

913/か

ぼく、ひとりいでいけるよ

リアン＝ムーア／作 神宮輝夫／訳
偕成社 1976



あらいぐまのリトル・ラクーンは、はじめて一人で小川の向こうにザリガニを取りにでかけます。ところが、水の中からにらんでるものがいます。リトル・ラクーンの小さな冒険のお話です。

933/ム

ポリーとはらぺこおおかみ

キャサリン・ストー／作 掛川恭子／訳
岩波書店 1979

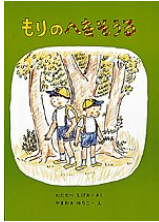


はらぺこオオカミはポリーを狙ってやってきますが、いつもポリーの知恵が一枚上手で失敗に終わります。ポリーとオオカミの知恵比べが楽しいお話です。

933/スキ

もりのへなそうる

わたなべしげお／作
福音館書店 1971



てつたくんとみつやくんはサンドイッチを持ってぼうけんにでかけます。そこで出会ったへなそうるは食いしん坊であまえんぼうの生き物でした。舌足らずなみつやくん、勘違いのへなそうるの楽しいお話です。

913/7シ

やかましむらのこどもの日

アストリッド・リンダグレン／作 山内清子／訳
偕成社 1983



やかまし村には家が3件、子どもは6人います。小さいシャスティーンは子どもの数に入れてもらえません。でも6人は小さいシャスティーンと遊んであげる日を「やかましむらのこどもの日」と決め、楽しい遊びを考えます。

949/11

あかいぼうしの ゆうびん屋さん

ルース・エインワース／さく こうもとさちこ／やく・え
福音館書店 2011



庭に住む動物や鳥たちはきちんと手紙を届けてくれる郵便屋さんを捜していました。犬・猫・リスが候補として試してみましたがうきいきません。最後に選ばれたのはこまどりです。

P/コサ

ロボット・カミイ

古田足日／作
福音館書店 1970



たけしとようこは段ボールでロボットのカミイをつくります。カミイは力持ちですが泣き虫でいばりんぼ。二人は幼稚園にカミイを連れて行きますが、カミイが事件を起こします。

913/7サ

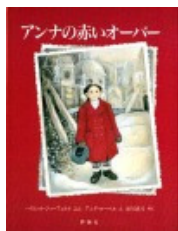
小学生にも

絵本

アンナの赤いオーバー

ハリエット・ジーフェルト/作 アンタ・ローベル/絵 松川真弓/訳

評論社 1990



戦争が終わったらアンナに赤いオーバーを買ってあげると約束してくれたお母さんですが、戦争が終わっても物は手に入りません。そこでお母さんは家にあるものと引き換えに新しいオーバーを手に入れる方法を考えます。

P/07

おおきなきかほしい

佐藤さとる/作 村上勉/絵

偕成社 1971



かおるには夢があります。庭に植えた木が大きくなり、そこに鳥やリスが遊びに来る家を作るのです。ぐんぐん広がる空想の世界が楽しい絵本です。

P/07

おいしいのぼうけん

古田足日/作 田端精一/絵
童心社 1974



さくら保育園には怖いものが二つあります。それは山姥と押入れです。さとしとあきは先生のことをきかなかったので押入れに入れられてしまいます。そこにはねずみばあさんが住んでいました。

913/7夕

かあさんのいす

ベラ・B. ウィリアムス/作 佐野洋子/訳
あかね書房 1984



おばあちゃんとかあさんとアパートに暮らす私たち家族は、いつか世界一すてきな椅子を買うためにこつこつと小銭をためています。火事で何もかも失ってしまったために三人で力を合わせているのです。

P/ウハ

からすたろう

八島太郎/作
偕成社 1979



からすたろう



学校に行っても隅っこにいて友達もなくてのけものにされていたちびが、6年生になったとき磯部先生と出会います。先生はちびのよいところを見つけて、発表の場を与えてくれます。

P/ヤタ

金のがちょうのほん

レスリー・ズリック/作 松瀬七織・瀬田貞二/訳
福音館書店 1980



イギリスの4つの昔話「三びきのくま」「三びきのこぶた」「金のがちょう」「親ゆびトム」が収められています。子どもたちに読んであげるのがに適した絵本です。

P/7L

これはのみのぴこ

谷川俊太郎／作 和田誠／絵
サンリード 1979

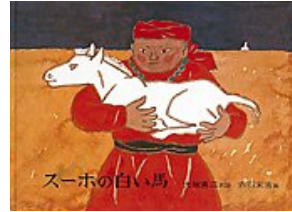


「これはのみのぴこ これはのみのぴこのすんでいるねこのごえもん これは・・・」
というように、言葉が重なっていく「ことばあそびえほん」です。

P/77

スーホの白い馬 モンゴル民話

大塚勇三／再話 赤羽末吉／絵
福音館書店 1967



貧しい少年スーホがかわいがって育てた白い馬は見事な馬になります。ところが、殿様の目に留まり取り上げられてしまいます。白い馬は何とかしてスーホの元へ帰ろうとします。モンゴルの平原を舞台にした心に残る作品です。

P/72

すばらしいとき

ロバート・マックロスキー／作 渡辺茂男／訳
福音館書店 1978



ひと夏を島で暮らす家族の自然体験、雨のにおいや風の音など、日ごろ気に留めずに過ごしている自然の営みに触れる豊かなときを描いています。

P/70

せかいいちうつくしいほくの村

小林豊／作
ポプラ社 1995



アフガニスタンのパグマン村に住む少年ヤモは、戦争に行った兄さんに代わり、父さんと一緒に果物を売りに市場へ行きます。戦争で失われてしまう美しい風景、穏やかな暮らしについて考えさせられます。

P/73

ちいさいおうち

バージニア・リー・ハートン / 作 石井桃子 / 訳
岩波書店 1965



静かな田舎の町にちいさいおうちが建っていました。ところが周りに道路ができ家やビルが建ち、賑やかになるにつれて、ちいさいおうちは静かだった頃を懐かしく思います。

P/A

チムとゆうかんなせんちょうさん

エドワード・アーティムニ / 作 せたていじ / 訳
福音館書店 2001



船乗りにあこがれているチムは、こっそり汽船に乗り込み船員として働き始めます。つらい仕事も一生懸命やって認められますが、ある日嵐で船が座礁してしまいます。逃げ遅れたチムと勇敢な船長さんのお話です。

P/AI

花さき山

斎藤隆介 / 作 滝平二郎 / 絵
岩崎書店 1969



山菜を取りにいった山姥に会ったあやは、優しい行いや小さいものを慈しむ心が美しい花を咲かせるという花さき山の話をお聞きます。その後、あやは花さき山に咲く花を思いながら暮らします。

P/A

びゅんびゅんごまがまわったら

宮川ひろ / 作 林明子 / 絵
童心社 1982



生徒が怪我をしたために閉鎖されてしまった遊び場を開放してもらうため、一年生のみんなは校長先生とびゅんびゅんごまの対決をします。次々と出される難題に子どもたちは挑戦していきます。

P/A

マンヒのいえ

ウォン・ユンドク／作 みせけい／訳
セーラー出版(現らんか社) 1998



マンヒは両親とともに、アパートから祖父母の家に引っ越します。そこはたくさんの部屋、広い庭、イヌやネコと一緒に暮らせる素敵な家でした。細部まで丁寧に描かれた韓国の絵本です。

P/72

ランパンパン インドみんわ

マギー・ダフ／再話 ホセ・アルエゴ他／絵 山口文生／訳
評論社 1989



クロドリは横暴な王様にさらわれてしまった奥さんを取り戻すため「ランパンパン」と太鼓をたたいて進みます。すると話を聞いたネコ、アリ、木の枝、川が仲間に加わり一緒に宮殿へ向かいます。

P/76/

ロバのシルベスターとまほうの小石

ウィリアム・スタイク／作 瀬田貞二／訳
評論社 1975/2006

ロバのシルベスターと
まほうの小石



シルベスターが拾った赤く光る小石は何でも願いの叶う魔法の小石でした。ところが、腹ペコのオオカミに出会い「岩になりたい」と願ってしまいます。心配した両親はシルベスターを探し回りますがなかなか見つかりません。

P/54

わすれられないおくりもの

スーザン・バーレイ／作 小川仁央／訳
評論社 1986

わすれられない
おくりもの



賢くて何でも知っているアナグマは、みんなから信頼されていましたが、秋の終わりに死を迎えます。悲しみにくれる仲間たちは、アナグマとの思い出の中から得たたくさんの知恵に気づきます。

P/82

福島県は「福島県子ども読書活動推進計画（第二次）」に基づき、子どもたちの読書を支援する活動を実施しています。また、県内の公共図書館や関連施設と連携を取り、子どもたちが楽しい本、心に響く本、未来に夢を持つことのできる本に出会う機会を提供しています。

福島県立図書館では、子どもの読書活動を支援する活動として、直接来館した親子への図書の出借や読書相談に加えて、市町村立図書館、公民館図書室、学校図書館やボランティアへ資料や情報を提供しています。

心を育て、未来への扉を開く素敵な本との出会いを
子どもたちへ！



子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト
親子ふれあい読書フェスティバル

本はともだち

平成26年（2014）11月29日発行

平成28年（2016）11月19日第二版発行

編集発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

FAX 024-536-4787